# 当センター外来採血における再採血の現状

◎松本 実華[1)]、野原 明穂[1)]、関口 由衣[1)]、田口 典子[1)]、金井 邦之[1)]、松嵜 朋子[1)]、小野口 晃[1)]
自治医科大学附属さいたま医療センター[1)]

【はじめに】当センターでは1日平均約500人の外来患者の採血を臨床検査技師により行っている．患者に負担をかけない採血を心がけてはいるが稀に検体凝固（以下凝固）や溶血が起きてしまい，患者を呼び出し再度採血が必要になる場合がある．これにより患者への更なる負担を強いるだけでなく，検査結果の遅延や受付事務員の業務増加にもつながる．今回我々は，再採血の現状を把握すべく調査したので報告する．

【方法】呼び出しをして，再度採血を行った場合には「呼び出し再採血患者リスト」への記入をしている．患者リストより2021年～2022年の再採血の件数を集計し，6月～9月を夏期間，11月～2月を冬期間とし件数の比較を行った．

【結果】2021年～2022年の総再採血件数は67件であり，うち凝固37件，溶血25件，検体量不足4件，採血容器間違い1件であった．凝固は夏期間8件，冬期間19件であり，溶血は夏期間5件，冬期間10件であった．当センターでの再採血は，その半数以上が冬期間に集中していた．

【考察】再採血となる患者側の要因として血管が細い，血管が硬いなどが挙げられる．冷えを感じると身体の熱を逃がさないように，全身の血管が収縮する．そのため，冬期間はさらに血管が細く出にくくなっていると考えられる．細い血管から採血をするため，血液の流入がゆっくりとなる，途中で止まってしまうということが起こりやすくなる．採血者側の要因としては，細い血管から細い針を用いて採血を行うため，針の固定が不安定なことや，穿刺した針の太さに見合わない圧でシリンジをひいてしまうことが考えられる．

【まとめ】採血は患者への肉体的・精神的負担が少なくない．再採血による患者への負担を減らし，円滑に診察・業務が行えるようにするために，採血者側に勉強会を開き手技向上図っていきたい．また，患者側にも寒いと血管が出にくくなることを周知し，採血待ち時間にホットパックなどを用いて，採血部位を温めておいてもらい，冬期間での再採血件数を減少させられるか検討していきたい．

連絡先 048-648-5357（直通）